

みみもど

JA全農えひめ情報

■特集

平成24年産温州みかん販売方針と消費宣伝活動

■JA直売所めぐり

立花元気市 ～JA今治立花～

11

2012・November



▶日の当たる明るい屋外で、内職者のむいた栗を再チェック。小さな欠けも見逃さない

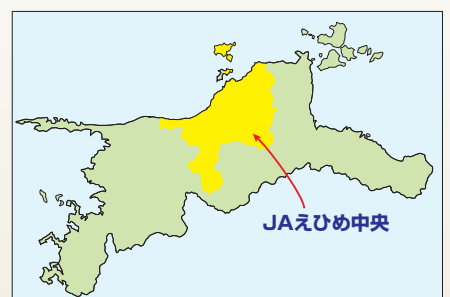


▶中山工場の加工品。むき栗、甘露煮、渋皮煮、茶巾絞りになっているのはペースト



栗の加工

(JAえひめ中央中山工場)



秋の味覚・栗の収穫が始まると、JAえひめ中央の中山工場では中山産をはじめとする県内の栗が運び込まれ、加工作業が忙しくなります。20名の常勤スタッフでは足りず、最大70名体制でのフル稼働です。製造工程第一段階の6面カットの皮むきは人の手が必要とあって、周辺地域約200人の内職者を確保しています。

中山工場での栗加工は昭和40年頃から始まり、最盛期の昭和50年頃には中山栗のみで5000tを扱っていました。が、栗の生産量減少に伴い、今では50t程度に落ちています。県内産栗の加工は10月をピークに12月まで。その半数は菓子問屋を経由して菓子店で使う「蒸し栗ペースト」になります。作業で最も気をつかうのは、糖度や密度など、年により状態の違う栗を柔らかく仕上げるための煮炊き時間の設定です。銘柄の中山栗にこだわる「むき栗」や、おいしさが詰まった「渋皮煮」の製造にはよく実って形のきれいな栗が欠かせないからですが、その熟練には最低でも4～5年を要するといいます。

県内産が一段落すれば輸入栗の「甘露煮」作業となり、工場では一年を通して栗の加工作業が続きます。

あぐり〜ど

November 2012

CONTENTS

全農グループの経営理念

私たち全農グループは、
生産者と消費者を安心して結ぶ
懸け橋になります。

私たちは「安心」を3つの視点で考えます。

- 営農と生活を支援し、元気な産地づくりに取り組みます。
- 安全で新鮮な国産農畜産物を消費者にお届けします。
- 地球の環境保全に積極的に取り組みます。

今月の表紙



山の大きな柿の木は今年もたわわに実をつけています。柿の木もお地蔵さんもいっしょに年月を重ね、ふもとの風景を見守り続けていたのでしょうか？

柿の実も、落ち葉も、風景も、茜色に輝く秋。陽だまりでの作業は、ぽかぽか、気持ちいいですね。でも「秋の夜はつるべ落とし」とも！ 用を済ませたら、早く家に帰りましょう。

●表紙：小春日和
はら ふみ(イラストレーター)

※「あぐり〜ど」は、「愛媛農業 (Agriculture)」を「リード (Lead) する」という意味と「心をつなげる (Agreed)」という意味を込めています。

農の風景Vol.143

栗の加工

(JAえひめ中央中山工場)

2

〈特集〉

平成24年産温州みかん販売方針と消費宣伝活動
高品質果実の計画出荷、需給調整対策、
効果的な消費宣伝活動を展開します

8

ふるさと ESSAY VOL.211

修行としての農業

小山田 憲正さん

10

TOPIC NEWS

13

なんでもBOX

16

私たちがTACです

～JAうま 営農指導課 妻鳥 芳紀さん～

17

統計BOX

18

JAふるさと自慢Vol.143「直売所めぐり」

立花元気市～JA今治立花～

20

READERS通信

NOW NOW COOKING〈今月の素材〉サツマイモ

JA全農えひめ

ホームページ

<http://www.eh.zennoh.or.jp>

■JA全農えひめ「えひめの食」企画

<http://www.eh.zennoh.or.jp/ehimenosyoku/>

※「えひめの食」では、旬の農産物情報を発信しています。

◆(株)えひめ飲料

<http://www.ehime-inryo.co.jp>

◆JAえひめアイパックス(株)

<http://www.iyokkora.jp/>

◆JAえひめ物流(株)

<http://www.jat-ehime.co.jp/>

◆JAえひめフレッシュフーズ(株)

<http://www.eh.zennoh.or.jp/ja-fresh/>

◆(株)ひめライス

<http://www.himerice.jp/>

◆JAえひめエネルギー(株)

<http://www.ja-ehimeene.co.jp>

高品質果実の計画出荷、需給調整対策、効果的な消費宣伝活動を展開します。

平成24年産温州みかんの生産予想量は、裏年にあたり、日園連の10月1日時点の主産県調査によると、全国では約82万トン（前年比94%、同じ裏年の22年産比では111%）、愛媛県では13万8,240トン（前年比92%、22年産比120%）と見込まれています。

こうした中で、JA全農えひめでは、24年産温州みかんの販売基本方針として、愛媛チームとして総合力を発揮し正確な情報収集・提供と効率化を図る中で、①品質基準の遵守、計画出荷の遂行、②企画販売の強化、③果実需給調整対策の実施、④消費宣伝の効果的な実施の4項目を柱に、愛媛みかんの有利販売に取り組んでいます。

24年産温州みかん生産概況

24年産温州みかんは、裏年にあたります。2年前の裏年は小玉傾向であったこと、また鳥獣被害等によって近年で最も少ない生産量でしたが、今年産は、開花時点における花の量もまずまず確保され、その後の生理落果も少なく、台風など収量や

正品率低下となるようなマイナス要素もなくきており、生産量は一昨年より2割程度多い見通しとなっています。

日園連の10月1日時点の調査によると、全国の露地みかんの品種別の生産予想量は、極早生13万7,518トン（前年比98%）、早生31万1,900トン（前年比92%）、普通34万7,377トン（前年比95%）。

愛媛県は極早生が前年比98%、早生が前年比94%、普通は前年比89%と、後半の品種になるほど少なくなると見込まれています。

次に生育状況は、極早生みかんは小玉傾向で推移しましたが、早生以降の品種は、ほぼ平年並の予想となっています。

果実内容については、糖酸バランスが非常に良好で、食味の良い果実



に仕上がっています。また、台風の襲来もなく、病害虫発生も特に問題なかったため、外観の仕上がりも良好で、正品率は例年より高くなると見込まれています。

24年産みかん出荷計画量は 5万9、943トン

10月20日時点でJA全農えひめがとりまとめた県内JAの出荷計画量は、約5万9、943トンで前年比94%、22年産比116%となっています。

月別では、10月16%、11月31%、12月49%、年明け1月以降3%という計画で、11月～12月の需要期には全体の約8割の出荷量を計画しており、需給バランスを見ながら厳選・計画安定出荷を行い、最需期の数量確保に努めることにしています。

こうした中で、10月の極早生みかんの販売は、各産地とも着色・酸抜けが良好であることから前

進出荷傾向となり市場入荷が集中したこと、また小玉果比率が高かったこと、さらに柿など競合果実の食味が良く入荷量も安定していたため、みかん平均価格は前年を下回る状況で低迷しました。

京浜市場における全国の平均単価は10月上旬・中旬とも前年比80%となり、10月19日には「緊急需給調整特別対策事業」が発動され、20日以降3、000トンのみかんが市場隔離されました。事業発動を契機に、市場に滞留していた在庫も減って、10月下旬には価格も上向きに転じ、月末には前年並に回復するなど、早生みかんの本格販売を前に持ち直してきています。

早生みかん以降については、作柄は前年を下回る指数となっていますが、特に11月中下旬の恒常的な売り悩み、りんご・柿などの競合品目については昨年を上回る生産量となっていること、また、近年の販売動向は需給バランスが崩れると価格の下落幅が大きくなっており、出荷に際しては市場別の販売動向を把握した中で、12月の需要期に向けた出荷対策が重要となっています。

京浜市場 平成24年産 露地みかん販売状況

		9月 計	10月上旬	10月中旬	10月下旬	10月 計	10月末累計
全 国	数 量 (t)	3,938	4,573	7,680	7,670	19,924	23,944
	前年比 (%)	117	124	110	96	107	109
	単 価 (円)	198	175	146	162	159	166
	前年比 (%)	83	80	80	98	87	87
愛 媛	数 量 (t)	192	904	1,568	1,914	4,386	4,578
	前年比 (%)	153	126	99	98	103	104
	単 価 (円)	218	190	161	160	167	169
	前年比 (%)	97	85	90	97	93	93

※単価は税込み

販売基本方針

JA全農えひめでは、平成24年産愛媛みかんの販売基本方針として、愛媛チームとして総合力を発揮し正確な情報収集・提供と効率化を図る中で4項目を柱に取り組むことにしています。

①品質基準の遵守、計画出荷の遂行

選果・選別・出荷予措の徹底と出荷計画を基準とした市場ごとの残荷量・未仕切等の販売状況を加味した計画出荷を行います。

②企画販売の強化

企画販売力のあるパートナー市場を重点とした販売拡大に取り組みます。

③果実需給調整対策の実施

販売環境の悪化を未然に防止し、荷動きの好転と販売を堅調に推移させることを目的に、昨年に続いて県全体として積立金を充当し、加工誘導対策、輸出促進対策など県域独自の対策として需給調整対策を実施します。

加工誘導対策は、極早生が11月10日までに1,200トン、早生以降の品種は1月31日までに2,500トンを対象に、それぞれ市場出荷向けの下等級品を市場から隔離します。

④消費宣伝の効果的な実施

販売具体策

1. 早生みかん

11月中下旬は恒常的な売り悩みとなっており、市場別の販売状況を勘案し販売先の需要に応じた出荷

に努めるとともに、品種の切り替えをスムーズに図ります。また、日量出荷量の平準化の徹底を図り、祝祭日及び休市明け及び11月8日・22日、12月6日は平常時の20%増以内に抑えます。

市況維持に向け、県域独自の加工誘導対策を実施します。

2. 普通温州みかん

12月中旬の一時的な需要の落ち込みに対応し、自主調整を含めた機動力のある出荷を実施します。量販店の年末・年始無休営業が常態化し、消費の平準化が進んでいることから、需要量に応じた出荷を実施するとともに、年明け販売をも視野に入れた出荷計画を策定します。

また、年明け販売分は、品質低下のないように貯蔵管理の徹底を図ります。

1月末まで県域独自の加工誘導対策を継続します。

3. 各品種の共通対策

精度の高い出荷計画の策定と品質・階級基準を厳守し、低品位果実は加工仕向け等の市場隔離を行います。

(単位：Brix、%)

品質基準

出荷時期	糖 度	酸 度
9月	9.0度以上	1.0%以下
10月	10.0度以上	1.0%以下
11月以降	11.0度以上	0.9%以下

※市場到着時目標とし、全国連の品質基準に準ずる。

品種・系統の品質特性を踏まえた適期出荷を徹底します。

11月7日～12月12日における水曜日の販売分は出荷を停止する。

◇対象日…11月7日・14日(休市)・21日・28日(休市)、12月5日・12日(休市)の合計6回

全果協10地域市場出荷計画の旬別前年比を指標として出荷計画を樹立するとともに、選果場ごとの出荷状況を的確に把握し、市場出荷残量を踏まえた計画的な出荷を行います。

また、生産指導部署との連携を密にし、選果・選別・出荷予措の徹底と、10地域市場出荷計画を基準として、市場ごとに残荷量・未仕切等の販売状況を加味し、出荷量を調整します。



需給調整に基づいた適正出荷量と特別出荷調整の対象期間（11月中下旬）におけるJA別の出荷量を遵守するとともに、長期取引契約数量及び単年度契約数量を必達します。

なお、緊急需給調整特別対策事業が発動された場合は、事業実施方針に基づき価格下落の主因となる恐れのある果実を加工原料に仕向けます。

4. 階級基準

出荷階級は2L～S級とします。
3L級以上と2S級以下の出荷は

高糖度系・特殊栽培ものに限りません。ただし、2Sは特殊栽培（マルチ・ポット栽培等）であつて、品質基準の糖度を1度以上上回る果実に限定します。

5. 緊急時の対策

市場価格の急落が懸念され、かつ市場在庫が増加傾向にある場合は、果実販売部会・販売情勢検討会等で協議し出荷調整等の緊急対策を実施します。

消費宣伝の効果的な実施

愛媛みかんの消費拡大に向けて、今年度も店頭試食宣伝、食育活動事業等を重点的に取り組んでいきます。

また今年で本格的に取り組み始める5年目を迎える「オレンジデー」の取り組みですが、今年度も11月3日「みかんの日」から4月14日「オレンジデー」までを「オレンジロード」と称して各記念日ごとに店頭販促活動やイベントで時期時期に旬の柑橘のPR、消費拡大に努めていきます。

まだまだ、全国的な認知度は高くない中で、「継続は力なり」ということで継続的に取り組みます。

1. 店頭試食宣伝

愛媛みかんの売り場確保・販売数量・売り上げアップを図るため、一般販促・集中型販促など店舗の状況にあった販促を実施し、より多くの消費者に愛媛みかんのPRを行います。

また、シーズンを通じて愛媛県産青果物の売り場を確保してくれる「愛媛協力店」を設定し、チェーンストアに対してはディスプレイコン

◆特集：平成24年産温州みかん販売方針と消費宣伝活動



テストを実施することで販売店の意欲を高めるとともに、愛媛かんきつの情報発信と消費拡大を図ります。

今年は、ディスプレイコンテスト等含めて311店舗、延べ652日の店頭試食宣伝を計画しています。

なお、この店頭試食宣伝に欠かせないのが、愛媛専属のSPレディ（セールスプロモーションレディ）です。SPレディは毎年研修会を開催し、商品知識及び今年の作柄等を学習することで、産地状況等も把握してもらい、産地と一体感を持ってお客様にしっかりとした対面販売がで

きるよう資質向上に努めています。

2. 食育活動事業

今年で10年目を迎え、幼稚園・保護者等からも好評であるみかんサンプリング企画「はじめてのみかんむき」を、東京と大阪の幼稚園児約20,000人を対象に継続実施します。

園児に対しては、みかんを自分でむいて食べるという経験を通じて、みかんをむく楽しさやみかんのおいしさを感じてもらい、幼いころからみかんを食べる習慣をつけ、また、

保護者に対してはリーフレット等を配布することにより健康情報の提供や幼稚園児の健やかな発育には果物が重要な役割を果たすことをアピールします。そして日常生活の中で柑橘類を食べることの習慣付けを行い、旬のおいしい「愛媛みかん」を印象付けて広範な消費拡大を図ります。

また、今年度はリーフレット内でオレンジロード紹介も兼ねて、その他の愛媛産柑橘の紹介と時期ごとに旬の柑橘をプレゼントするキャンペーンを実施し、愛媛柑橘全体のPRを実施します。

オレンジロードアンケートに答えて
愛媛の特選柑橘 プレゼント!!

賞品

えひめ旬の柑橘セット

(旬の柑橘を、各回20名合計80名様にプレゼント)

〈応募方法〉

下記の「オレンジロードアンケート」に答えて、官製ハガキまたはモバイルサイトにて応募ください。

〈抽選〉

第1回抽選 平成24年12月3日
第2回抽選 平成25年1月20日
第3回抽選 平成25年2月20日
第4回抽選 平成25年3月20日

〈抽選〉

●各回の応募者の中から厳正な抽選を行い当選者各20名を選びます。
●一度ご応募いただくとし、その後の各回に抽選のチャンスがあります。
●当選はお一人様1回限りとなります。

〈当選発表〉

●当選者の発表は賞品の発送をもってかえさせていただきます。

オレンジロードアンケート

1. 下記の柑橘で、知っている柑橘の番号を書いてください(複数回答)
2. 下記の柑橘で、食べたことがある柑橘の番号を書いてください(複数回答)
3. 下記の柑橘で、好きな柑橘の番号を書いてください(複数回答)

※次の10種類の柑橘からお選びください

①温州みかん ②紅まどな ③いよかん ④ポンカン ⑤はるみ
⑥甘平 ⑦デコボン ⑧せとか ⑨清見タンゴール ⑩カラマンダリン

4. 4月14日「オレンジデー」は、バレンタインデー、ホワイトデーを経た人たちが、オレンジ色のものを贈り合い、愛を深める日として日本記念日協会に正式に登録された記念日ですが、知っていましたか?
①知っていた ②知らなかった

5. 愛媛の柑橘について、ご意見・ご感想があればご記入ください

●お問い合わせEメール:「愛媛の特選柑橘プレゼント」係
info@ehime-orange-road.com

●おいしくて、美容と健康にも良いえひめみかんを、今後ともよろしくお願いたします。

※ご記入いただいた個人情報、賞品の抽選・発送、当キャンペーンに関する連絡等で使用させていただきます。
個人情報、アンケートは第三者への提示・開示には使用いたしません。

JA全農えひめ

2012.11

3. 愛媛みかん大使による消費宣伝

「愛媛みかんの顔」＝産地の代表として、今年も早生みかんの販売スタートにあわせて、11月7日から12日まで、東京・大阪に愛媛みかん大使4人を派遣します。各種イベント

への参加、マスメディア等を巡回訪問し、活動の意義や目的を周知するとともに、イベントの記事掲載等を通じた消費宣伝の相乗効果を図ります。

4. 「オレンジロード」企画

今年も11月3日の「みかんの日」から来年4月14日まで、「オレンジロード」企画として、キャンペーン・販促活動を展開していきます。

11月3日は、レインボーフェスティバルのイベント会場で、JA全農えひめの諏訪玄県本部長

と2012愛媛みかん大使4名がスタートイベントを開催。12月2日にはエミフルMASAKIでみかん大使によるみかんと紅まどんなの試食宣伝を実施予定です。

なお、来年4月14日まで、「いい予感」「バレンタインデー」「ホワイトデー」といった記念日ごとに、「オレンジデー」、「オレンジロード」の認

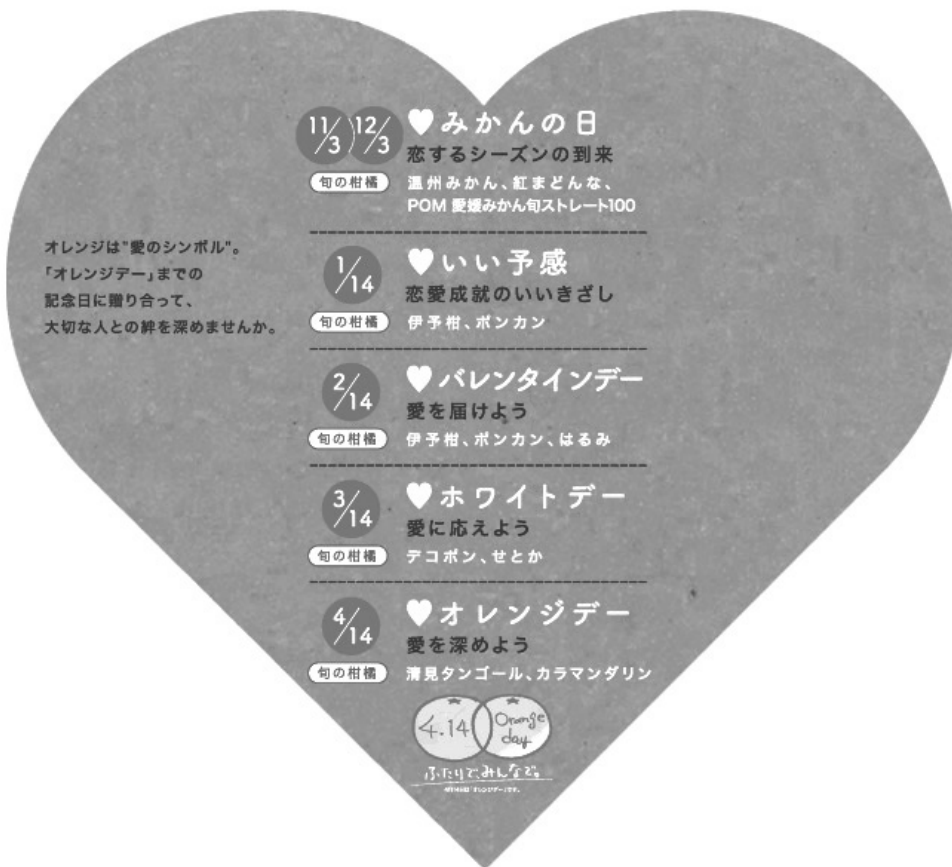
知度向上を図るとともに、愛媛県産柑橘全体のPR・消費拡大に向けて、効果的なイベントを実施します。

5. 全国果実生産出荷安定協議会による消費宣伝

「食事バランスガイド」に基づいたバランスの良い「日本型食生活」の実践の推進と、その中での果実摂取（毎日くだもの200グラム運動）の重要性の訴求による普及啓発、安全・安心な国産果実全体のイメージアップや話題性の醸成・提供及び全国の果樹産地が一体となった取り組みを行い、国産果実全体の需要拡大を図ります。

また、今年度も状況に応じて東日本大震災被災地支援、原発事故による風評被害の払拭等を目的とした取り組みを行います。

◇実施項目：集中的販売促進活動（全国みかん産地統一販売促進活動）、小学生を対象とした普及啓発（出前授業、副読本作成・配布、コンクール等）、ラジオCMを活用した取り組み、イメージキャラクター関根麻里を使用した広報活動、疫学研究への助成等





修行としての農業

お寺で農業を営むに当たって、大変頼もしい、でもいつでも気がかりな仲間たちがいます。お寺で修行をする人たちです。

お坊さんだけではなく一般の人も俗世を離れて一心に修行ができる場所、それがお寺だと私は思っています。誰しもが様々なことに悩まされる昨今だからこそ、ゆつくり落ち着いて自分を見つめ直す時間、場所が必要ではないでしょうか。

これまで多くの人たちがお寺で修行をしてきました。最近引きこもりや不登校の子どもたち、将来の行く末をもっとゆつくり考えたい若者などが多いようです。

「仙人の住んだ山寺での滞在」というと、ゆるやかな雰囲気を感じるかもしれません。が、とんでもありません。「ゆつくりと自分を見つめ直す」の「ゆつくり」は、のんびりするのではなく、一心不乱に集中して身体を動か

し、頭の中を空っぽにする、あれやこれやと惑わされることなく、シンプルながらも一生懸命に生きる、ということ。余計なことを考えず、自己を見つめ直すためには、「あれをしたい、これをしたい」という欲から離れることが重要で、そのために何も考えられないくらいまでクタクタに身体を動かす必要があるのです。

彼らの毎日は本当にシンプルで、一言でいいますと「下座行^{げざぎょう}」です。お坊さんのような滝にうたれたり、お経を読んだりする修行ではなく、一日中ずっと身体を動かしてあちらこちらを掃除します。幸い山寺です、手を入れるところはそれこそあちこちに山ほどありますから。

私が農業を始めてからこの下座行に農業が加わり、いまではとってかわって修行の中心となりました。朝のお勤めが終わればすぐに境内を掃除し、ささっと朝食をとったらすぐに

小山田 憲正
OYAMADA KENSHO

昭和25年生まれ、愛知県名古屋市出身。高野山大学文学部西洋哲学科卒。四国霊場第五十八番札所仙遊寺住職（高野山真言宗）。『四国へんろ道文化』世界遺産化の会 代表世話人。地域づくり研究会「源流」会長。空手教室「創心含道場」指導者、空手五段。他、民生委員や保護司など、役職多数。

平成元年、仙遊寺住職に就任後、「共生」の文化である四国遍路道文化の理解普及に力を注ぐ。修行の場として寺を開放、ひきこもり不登校、悩める者と寝食を共にし、お互いを思いやる遍路文化を実践している。最近はおっぱら畑仕事に熱中、毎日朝から晩まで土いじりに精を出している。

◆仙遊寺 TEL 0898-55-2141／今治市玉川町別所甲483
／宿坊は60名収容、浴場は温泉。バス・トイレ付個室あり。精進料理のみ可（要予約）。



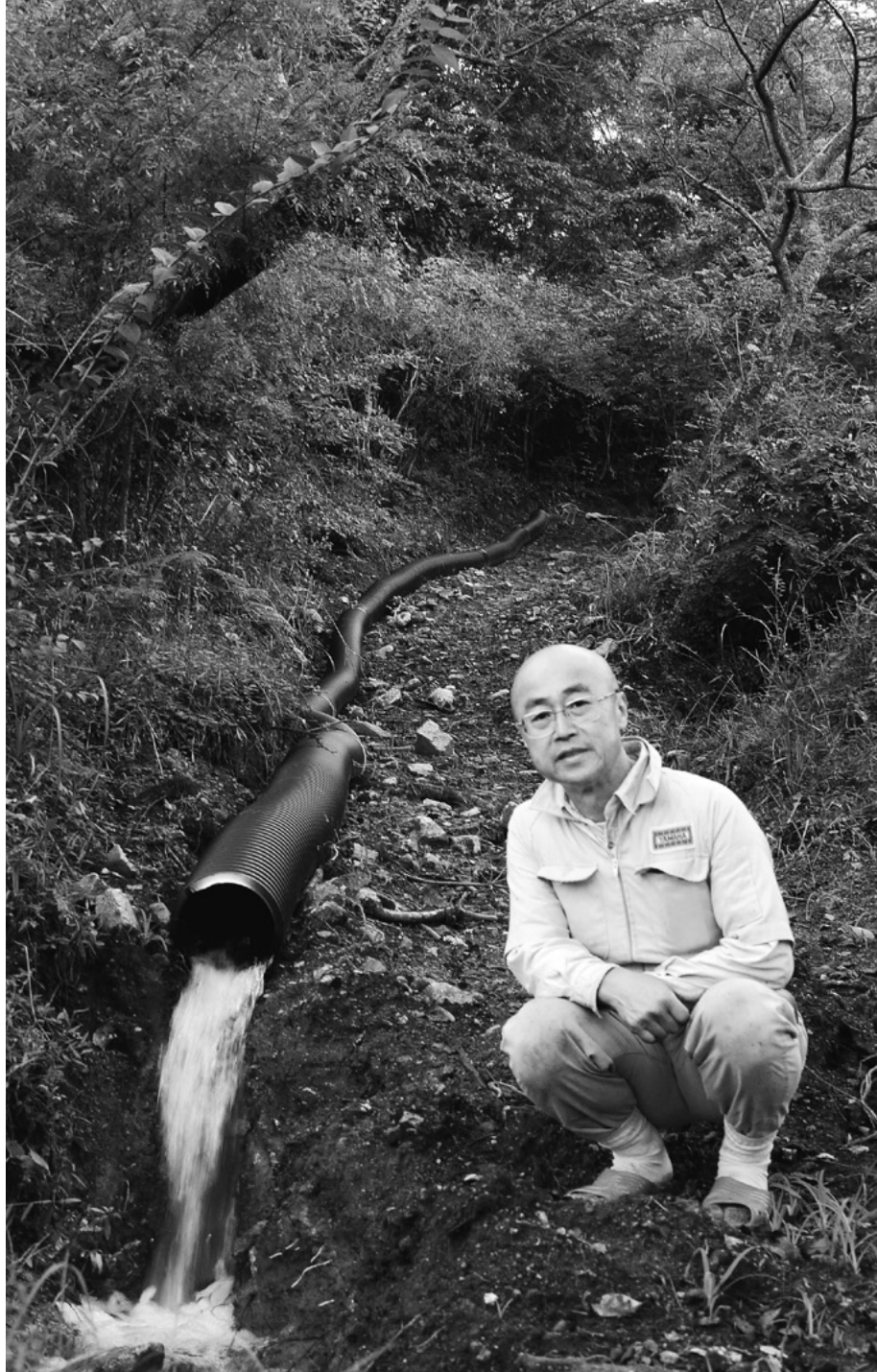
▲ともに農業を営む修行者たちと。後ろにはみんなで苦労して切り開いた棚田が並ぶ

田畑へでて、夕方までずっと畑仕事です。ほとんどの修行者が土をいじることをから初めてですから最初は戸惑いをかくせませんが、一か月もすればもう立派な農夫です。一生懸命手伝う姿を見て、私も負けていられないと熱が入ります。

私は農業を通じて、自己を見つめ直すことはもちろん、様々な経験を彼らに積んでほしいと願っています。何でも簡単に手に入る昨今、ジャガイモ一

個作るのに相当な労力が必要だということ。どれだけ人智が優れていても、自然には全くなかないということ。また、永い年月をかけて多くの人々がその自然と共に生きてきたという事実。私達が忘れがちな、感謝や努力、忍耐、そして謙虚さ。農業を営むことは、彼らの心を育てることでもあるのです。

やさぐれた顔をしていた中学生の男の子が、収穫の際に見せた満面の笑



▲「水をたくさん使う田んぼのために、山間から清流を引き込む作業には難儀しました。今でも棚田に水が広がっていく光景は忘れられません」

顔。ふてぶてしい態度が目立つ青年の、一生懸命に鍬を握る後ろ姿。シンブルだからこそ、すぐに集中して臨むことが出来るし、本気にだつてなりやすい。一心に土を耕すことで、自分たちの心も耕して、そして将来を見据えてほしい。自分たちの夢をかなえてほしいと切に願っています。

かくいう私は、あれもしたい、これもしたい、と農業での夢が次から次へと膨らみます。でも、本当の夢はもう実現しているのかもしれませんが。皆で協力して、自然の恵みを体いっぱいにする。精いっぱい努力をして、あとは自然と共に生きる。なんて人間的な、幸せな毎日なのでしょうか。本当に有り難いことだと思います。農業を通じて自然と触れあうことは、私達の心を間違いなく平安に導いてくれます。まさに、自然とは仏様と一緒にいるのです。

彼らと一緒に過ごす一日の中で、私は大好きな時間があります。お昼のお弁当を食べる時間です。しんどい農作業の合間、険しかった表情も緩み、穏やかな時間が流れます。青空の下で起こる笑い声、おいしいお弁当と空気、そして広がる山々。農業を始めてよかった、と心から思います。 合掌

●平成24年度愛媛県園芸大会

未来につなごう！果物づくりの心と技を

愛媛県とＪＡ全農えひめ、愛媛県果樹研究同志会、愛媛県女性果樹同志会は、10月16日、松山市の㈱えひめ飲料で、「未来につなごう！果物づくりの心と技を！」をテーマに、平成24年度愛媛県園芸大会を開きました。

大会には、生産者、ＪＡ・市場等から関係者約550人が出席。園芸功労者として17個人・1団体の表彰、優良卸売会社の表彰と指定卸売り会社77社への指定証交付、2012愛媛みかん大使の紹介などを行いました。

大会宣言では、高品質果実の安定供給とともに、優良品目・品種への転換や園地基盤整備などを行い、自らの経営基盤の強化と競争力のある産地づくりに取り組むことを確認。①届けよう、忘れられない愛媛の味、②図ろう流通の多様化、広げよう販売の道、③安全・安心、まずは農家の意識から、④知ってもらおう、愛媛の柑橘オールスター！！－のスローガンを満場一致で採択しました。

また、愛媛県から柑橘産地振興と需要拡大等の取り組み紹介、ＪＡ全農えひめからは、今年産愛媛みかんの生育状況と販売方針・具体策、消費宣伝活動の概要等を報告し、関係者に販売促進の協力を呼びかけました。

なお、平成24年度園芸功労者表彰受賞者は次の皆さん（敬称略・ＪＡ名の方は職員）。

【愛媛県知事農産園芸功労知事表彰】

▽藤原正孝（今治市）▽一色悟（松山市）▽宮内喜久子（松山市）▽二宮儀雄（宇和島市）▽脇坂寛（内子町）▽ＪＡえひめ中央温室みかん研究部会（松山市）

【果樹産業振興桐野基金理事長賞】

▽宇佐美好正（西条市）▽渡部憲明（今治市）
▽高石信昭（伊予市）▽田中伸誠（松山市）▽中田勇男（大洲市）▽村田彰三（八幡浜市）

【果樹産業振興全農愛媛県本部長賞】

▽大内明男（松山市）▽藤原政彦（ＪＡ周桑）
▽吉田敏彦（ＪＡおちいまばり）▽永見豊三（ＪＡ愛媛たいき）▽後藤和久（ＪＡにしろわ）▽武内松生（ＪＡえひめ南）



▲受賞者を代表して謝辞を述べる藤原正孝さん

●平成24年度「愛媛県くり品評会」

果実・立木部門とも萬奥修一さんが農林水産大臣賞

J A全農えひめと愛媛県くり研究同志会は、9月30日、平成24年度「愛媛県くり品評会」を開催し入賞者を決定しました。最高位の農林水産大臣賞には、立木部門・果実部門とも萬奥修一さん（J A愛媛たいき）が選ばれました。12月に表彰式が行われます。

今年産は、着果数は品種や園地のバラつきはあるものの、前年比124%の1,100トンの生産が見込まれています。こうした中、品評会には立木12点、果実46点の出品があり、果実部門では県・同志会・J A全農えひめの関係者が、果実の形や玉揃いなどを審査しました。

出品果実は、10月1～2日に、県果樹研究センターで行われた農林水産参観デーで展示され、大勢の来場者が見入っていました。

その他の受賞者は次の皆さんです（カッコ内はJ A名・敬称略）。

【立木部門】▽愛媛県知事賞=三ツ井守恵（えひめ中央）▽全農愛媛県本部長賞=三滝清（ひがしうわ）▽くり研究同志会長賞=長田直一（えひめ中央）、池田一義（愛媛たいき）、佐野嘉浩

（同）

【果実部門】▽愛媛県知事賞=三ツ井久一（えひめ中央）▽全農愛媛県本部長賞=井上多美子（同）▽くり研究同志会長賞=岡崎良一（ひがしうわ）、西本和明（愛媛たいき）、和田清光（えひめ中央）



▲農林水産大臣賞受賞の萬奥さんの「銀寄」



◀「農林水産参観デー」の品評会展示コーナー

●第36回テレビ愛媛杯愛媛県ママさんバレーボール大会

(株)ひめライスはスポーツ振興に貢献しています。

(株)ひめライス協賛「第36回テレビ愛媛杯愛媛県ママさんバレーボール大会」が、9月22日、松山市の愛媛県武道館主道場で開かれ、玉津クラブ（西条市）が3年ぶり2回目の優勝を飾りました。準優勝は雄郡体協COM（松山市）、3位は大町クラブ（西条市）、高津リベロ（新居浜市）が入りました。

今年は、県内39チームの中から東・中・南予の各地区予選を勝ち抜いた16チームが参加。競技は、9人制・トーナメント方式で行われ、参加チームは、家族の声援を受けながら、日ごろの練習の成果を発揮し、レベルの高い熱戦が展開されました。

(株)ひめライスは、スポーツ振興を通じた健康で明るい家庭づくりに貢献しようと、毎年、同大会に協賛。3位以内の上位4チームのメンバー全員に副賞としてひめライス無洗米『あらうまい！愛媛県産コシヒカリ』と(株)えひめ飲料提供のボンジュースセットを、参加者全員にお

米とひめライスグッズをプレゼントしました。

また当日は、特別ゲストとして、元全日本エースアタッカーの宮崎謙彦さんと北京五輪出場の桜井由香さんの指導で、「ちびっこバレーボール教室」も行われました。

大会の様子は、10月7日、午後4時からテレビ愛媛で放映されました。



▲優勝した玉津クラブの皆さん

●平成24年産「柚子出荷会議」

今年産は裏年傾向。出荷量は前年比66%の1,671トン进行計画

J A全農えひめ青果販売課は、10月17日、松山市のJ A愛媛で、平成24年産「柚子出荷会議」を開きました。会議には、主産5 J Aの販売担当者と市場が出席。生産概況を確認し、販売方針を決めるとともに、県加工原料用の取り扱いについて確認しました。

県内主産地5 J A（J Aえひめ南、J Aひがしうわ、J A愛媛たいき、J A周桑、J Aえひめ中央）の栽培面積は189.3ha（前年比101%）と増えているものの、生産予想量は裏年傾向ということで1,675 t（同65%）と昨年を下回る見込みです。出荷量1,671トン（同66%）のうち市場販売分は、11月を中心に冬至まで144.7 t（同130%）を計画。昨年は異常気象の影響で正品率が低下し市場の希望数量に応えられなかったため、今年産は冬至を中心に市場必要量を確保することとし、生産量の事前把握による重点市場への適正な販売計画とそれに基づく安定出荷を行うことを確認しました。また、出荷規格の厳守による選果レベルアップとJ A間の格差是

正に取り組みます。

加工販売については、引き続き加工業務需要（搾汁）が低迷し、主力産地は在庫を多く抱えている状況で引き合いが弱まる見通しの中、契約的販売を重視し、新規取引先の確保に取り組みます。柚子皮を使った加工品は業務筋の引き合いも強く需要が安定しているため、加工柚子のA品率を高めることで販売高の底上げを目指します。



●エミフルMASAKIで店頭試食宣伝

「芋炊き」を振る舞い里芋「伊予美人」をPR

J A全農えひめとJ A愛媛野菜生産者組織協議会は、10月6日、J Aうまと協力して松前町のエミフルMASAKI店舗前で、里芋「伊予美人」をPRしようと、昨年に続いて「芋炊き」約400食を消費者に無料で振舞いました。

「伊予美人」の特徴である軟らかくねっとりした食感や濃厚な甘み、味の良さを広く消費者に知ってもらい認知度向上と販売拡大につなげようと実施したもので、コラボ企画として、日本食研㈱の「いもたきのタレ」を使用しました。

「芋炊き」は、J Aうま関係者が直径1 mの大鍋で、約400食分を作成しました。

試食会場は、「芋炊き」の香りに魅せられて、配付開始前から長蛇の列。さっそく試食した方は、「軟らかい」「粘りがあって美味しい」と大好評でした。

当日は、店内の青果コーナーでもマネキン試食販売を実施。「伊予美人」の美味しさをアピールしながら、販売促進に努めました。



なんでもBOX

●平成24年度愛媛県総合畜産共進会 農林水産大臣賞に越智章さん（JA周桑）

平成24年度愛媛県総合畜産共進会の第74回家畜改良共進会肉用種牛の部が、10月18日、西予市野村畜産総合振興センターで開かれ、農林水産大臣賞に経産牛部門優等賞首席の越智章さん（JA周桑）の出品牛「ひなたかよ」が選ばれました。

共進会は、家畜改良と畜産の振興を図るため、(社)愛媛県畜産協会が毎年開催。今回は、経産牛の部22頭・未經産牛の部13頭・子牛の部137頭の出品がありました。

大臣賞の越智さんは「繁殖は5年前から。粗飼料をたっぷりやって育てている。まさか受賞するとは」と初の受賞を喜んでいました。

共進会後にはJA全農えひめが和子牛臨時市場を開催。133頭（雌56頭、去勢80頭）が取引され、1頭あたり平均販売額は、雌が325,818円（前回比5,517円高）、去勢が410,496円（同1,872円安）でした。

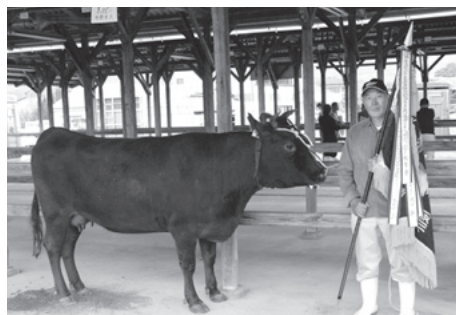
その他の受賞者は次の皆さんです（敬称略・カッコ内はJA名）。

【経産牛部門】▽優等賞次席＝村上克也（ひがしうわ）▽1等賞首席＝池田一成（えひめ南）▽同次席＝井関秀夫（ひがしうわ）▽同3席＝赤松宣明（えひめ南）

【未經産牛部門】▽優等賞首席（農林水産省生産局長賞）＝山本三好（愛媛たいき）▽同次席＝藤原正勝（周桑）▽1等賞首席＝赤松宣明（えひめ南）▽同次席＝山岡造（愛媛たいき）

【子牛雌部門】▽優等賞首席（中国四国農政局長賞）＝山岡造（愛媛たいき）▽同次席＝井関村男（ひがしうわ）▽1等賞首席＝山本三好（愛媛たいき）▽同次席＝越智章（周桑）▽同3席＝赤松宣明（えひめ南）

【子牛去勢部門】▽優等賞首席＝上城貴士（ひがしうわ）▽同次席＝山本三好（愛媛たいき）▽1等賞首席＝山岡造（愛媛たいき）▽同次席＝畠山修（えひめ南）▽同3席＝池田一成（同）



▲農林水産大臣賞に輝いた越智章さん「ひなたかよ」

●えひめほろよいフェスタ '12 愛媛の酒の消費拡大をJA全農えひめも応援！

10月5日、松山市堀之内の城山公園内管理広場で県内の18蔵元が参加して「えひめほろよいフェスタ '12」（愛媛県酒造協同組合主催・JA全農えひめ協賛）が開かれました。

当初は、10月1日の「日本酒の日」にあわせて開催予定でしたが、天候不順の影響で延期して開催されました。

会場には、約700人が来場。愛媛のお酒と一緒に、じゃこてんなど屋台コーナーの料理を味わい、ほろ酔い気分で「えひめの酒祭り」を楽しんでいました。

このイベントに協賛したJA全農えひめとグ

ループ会社は、特設ステージで行われたお楽しみ抽選会に自慢の商品を提供し、イベントを盛り上げました。



●2012国際協同組合年 愛媛県大会

協同組合の意義・役割を認識し学習・教育活動強化を

J A愛媛中央会・J A全農えひめ他県内のJ A連合会、森林組合連合会・漁業協同組合連合会・生活協同組合連合会・中小企業団体連合会の10団体で組織する2012国際協同組合年愛媛県実行委員会は、10月18日、「2012国際協同組合年愛媛県大会」を開きました。

会場となった松山市のJ A愛媛には、県内の協同組合の役職員など約300人が参加。経済評論家の内藤克人さんの記念講演、各組合の若手職員10人をパネリストにした「協同組合白熱教室」と題した意見交換等を通じて、協同組合の役割や今後の方向について理解を深めました。

大会では、地域に根ざした活動をさらに発展させ、地域から信頼され、必要とされる組織であり続けることが地域協同組合としての使命と

位置づけ、役職員の学習・教育活動の強化や地域のボランティア活動に積極的に参加することを全会一致で申し合わせました。



●平成24年度愛媛農林水産参観デー

新品種や新技術等研究成果が紹介されました。

10月1日、2日の2日間、愛媛県農林水産研究所と同果樹研究センターで、研究成果を生産者や関係者に広く知ってもらおうと、「平成24年度農林水産参観デー」が開催されました。

松山市上難波の愛媛県農林水産研究所では、高温耐性品種として話題のお米「にこまる」の紹介、お米の「しずく媛」、イチゴ「あまおとめ」、ソラマメ「愛のそら」、里芋「媛かぐや」、つくねいも「やまじ王」など愛媛ブランドの育成成果の展示、有望系統の紹介、栽培技術等が紹介されました。J A全農えひめでは、肥料・農薬やハウス・農機等資材の紹介・展示、お米の食味分析などを行いました。

また、松山市下伊台の愛媛県農林水産研究所果樹研究センターでは、「新品種・新技術で魅力ある産地づくり」をテーマに、本館で甘平の裂果対策や高品質果実生産対策、太天の栽培・脱渋技術、キウイフルーツ新品種育成状況、各種病害虫対策など、これまでの研究成果を展示。屋外では、研究ほ場の公開や研究員らによる果

樹技術相談などが催されました。

協賛展として、愛媛県くり研究同志会主催のくり品評会出品果実と立木部門入賞ほ場のパネルを展示紹介。愛媛県鳥獣害防止対策推進会議は鳥獣害対策関連資材の展示・相談を実施しました。また、J A全農えひめはかんきつ・落葉果樹の展示を行い、訪れた人の関心を集めていました。



●愛媛県議会果樹農業振興議員連盟「果樹を語る会」

産地の取り組みと販売戦略について意見交換

愛媛県議会果樹農業振興議員連盟主催の「果樹を語る会」が、10月1日、JA愛媛で開かれました。同会は、平成19年から毎年行われており今年が6回目。

果樹同志会役員、県議会議員、県行政、JA関係者など約80人が出席し、産地の取り組み状況や販売戦略について積極的に意見交換しました。

会では、元JA全農えひめ副本部長の林耕一郎さんが、「愛媛県の果樹農業について」と題して講演。現役時代に取り組んだ経験を通して、単品のブランド化ではなく、「愛媛ブランド」を確立・強化し、産地と市場・仲卸・小売店が一

体となって消費者サイドに立った生産・販売をしていこうと語りました。その後、講演内容を基に、出席者が意見・質問等を活発に出し合いました。



●南予地方の伝統野菜「大洲芋」を使用

大洲農高生徒とコンビニが「大洲芋のパン」を共同開発

10月5日、県庁記者クラブで、県立大洲農業高校の生徒とコンビニエンスストアのサークルKサンクスが共同開発した「大洲芋のパン」の販売発表が行われました。

会場には、同校生徒・関係者と同社のほか、JA愛媛たいき職員などが出席しました。

このパンは、南予地方の伝統野菜「大洲いも（オウドイモ）」を「食の財産として普及していきたい」という想いで産地化と商品化に取り組む大洲農高の生徒と、普及展開に賛同したJA愛媛たいきなど関係機関の協力により実現。10月9日から四国・中国地区のサークルKサンクス553店舗で約2万個（数量限定）販売されました。

この取り組みの成果は、全国の農業学校生が集う、「日本学校農業クラブ全国大会長野大会」で四国ブロック代表として発表されるということです。



●フレッシュレンジ新曲が完成しお披露目

「みかんの国からこんにちは」

JAにしようのうたうみかん生産者「フレッシュレンジ」が新曲完成を記念し、10月1日、愛媛県庁などで披露しました。

フレッシュレンジは平成17年にJAにしよう女性部向灘地区の生産者を中心に結成されたグループ。これまで道後などの観光地や東京などで消費宣伝活動とミニライブを行い、愛媛みかんの美味しさと素晴らしさを伝えてきました。

今回完成した新曲「みかんの国からこんにちは」は8曲目（第4弾CD）で、愛媛みかんを育む3つの太陽や八幡浜の風土などを歌詞に盛り込み、みかんの有数の産地であるJAにしよう地域の魅力あふれる曲になっています。作成したCDは、地元の保育所・幼稚園・学校関係のほか、取引市場や県内スーパーなどにも送られるということです。

当日は同グループ9人が、愛媛県庁に中村時広知事を表敬訪問した他、エミフルMASAKIやJA愛媛も訪問し、ミニライブを実施。JA愛媛では、1階ロビーでミニライブの後、JA全農えひめの諏訪玄県本部長にCD・ポスターを贈呈しました。



▲中村知事とフレッシュレンジの皆さん



▲定期的な訪問のほか農家の要請に基づき訪問対応しています。

私は、今年の4月から新任TAC（アグリアドバイザー）として、寒川・豊岡地区、品目は花卉・花木を担当しています。3月末までは購買窓口の担当だったので、自分から農家の自宅等に出向く機会がほとんどありませんでした。当初は農家の名前や畑の場所も

分らず、農作業中の方を見つけては声掛けを行うといった状況で、ただ自分の顔と名前を皆さんに早く覚えてもらえるよう、積極的に出向くことを心掛けてきました。

花卉・花木についても、日々の訪問活動では情報の収集・発信に努めています。JAうま総合経済センターでは、愛媛県及び四国中央市とJAの農業関係部署が連携し、迅速かつ的確な農家対応を実現しており、花木に関しては月2回程度、県の指導班と協力して病害虫の定点調査の実施及びその情報を農家に発信し、病害虫防除等の注意喚起を行っています。

今後は出向く営業で、JAうま管内でまだまだ発展途上にある花卉・花木を中心に、農家と一体となって産地振興を図っていきます。

ii!! TAC® 私たちがTACです

農家とともに成長し産地振興を！



JAうま
営農指導課
妻鳥 芳紀さん



まいにちが、ごちそう産

こたに
しょうこの“旬”発見！

愛ある産地におじゃましま～す！

日曜日 12:50～12:55放送 ※毎月2・3回放送 もぎたてテレビのあと！

「えひめの食」企画の番組「えひめの食 こたにしょうこの“旬”発見！～愛ある産地におじゃましま～す！」が、南海放送で日曜日12時50分～12時55分、毎月2～3回放映されています。

11月18日（日）と11月25日（日）は、「みかん」をとりあげます。

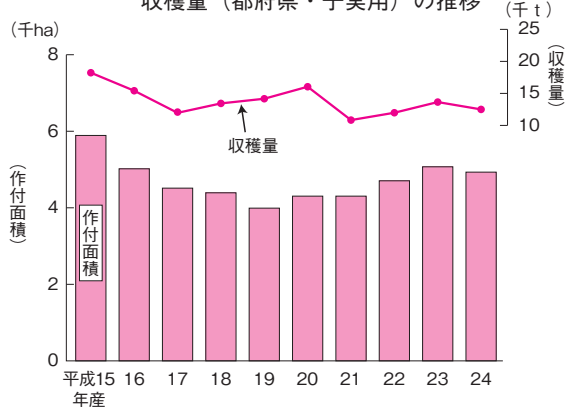
12月2日（日）は「紅まどんな」を予定しています。お楽しみに。

なお、番組放送分のバックナンバーは、JA全農えひめ「えひめの食」企画ホームページ⇒「えひめの食提供番組」から見るができますので、ご確認ください。

統計BOX

作付面積は27年、収穫量は26年連続日本一！愛媛県のはだか麦 — 平成24年産麦類の作付面積及び収穫量(都府県)調査結果(概数)の概要から —

図1 平成24年産はだか麦の作付面積及び
収穫量(都府県・子実用)の推移

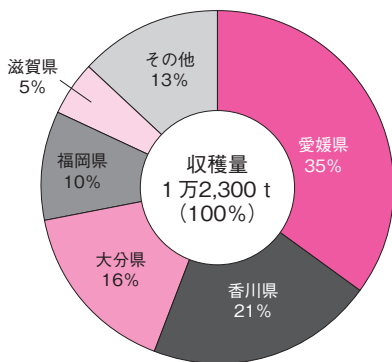


都府県の作付面積、 収穫量は減少

は だか麦が収穫期を迎える5月には、黄金の麦穂が風にそよぎます。これは、東予・中予を中心に見られる風物詩です。今月は、愛媛県の主要農産物であるはだか麦の生産について見ていきます。

平成24年産はだか麦の都府県の作付面積(子実用)は4,970 haで、前年産に比べ160 ha(3%)減少しました。10 a当たり収量は247 kgで、前年産に比べ43 kg(7%)下回りました。収穫量は1万2,300 tで、前年産に比べて1,400

図2 平成24年産はだか麦の収穫量
(都府県・子実用)割合



愛媛県の収穫量は 大幅に減少

愛媛県の作付面積(子実用)は1,610 haで、前年産に比べて20 ha(1%)減少しました。また、10 a当たり収量は264 kgで、前年産に比べて58 kg(18%)下回りました。

た(10%)減少しました(図1)。都府県別にみた収穫量の割合は、愛媛県が35%(4,250 t)を占め、2位は香川県で21%(2,590 t)、3位が大分県で16%(1,960 t)となっており、上位3県で全国の約7割を占めています(図2)。なお、作付面積の割合は、愛媛県が32%(1,610 ha)、大分県が20%(973 ha)、香川県が18%(918 ha)となっています。

麦

これは、は種期の降雨による発芽不良や、1月から4月上旬の低温による生育の抑制等があったためです。この結果、収穫量は4,250 tで前年産に比べ1,000 t(19%)下回りました。

愛媛県におけるはだか麦の作付面積は昭和61年以降27年、収穫量は昭和62年産以降26年連続全国第1位の見込みで、他県を大きく引き離しています。

については、平成12年からは種前に実需者と産地とが生産量や価格について取り決めるを行う民間流通制度が導入されましたが、平成18年6月には政府無制限買入制度が廃止され、制度的にも完全に民間流通となりました。また、生産者に対する支援は平成23年産麦から「農業者戸別所得補償制度」が本格実施されるなど、麦を取り巻く情勢が大きく変化する中、需要に即した良品質のはだか麦の生産を行うため、実需者ニーズを踏まえつつ、生産性が高く、良品質品種の開発・普及、基本技術の励行を含めた生産対策の推進が重要となっています。

中国四国農政局
松山地域センター 農政推進グループ



インフォメーション

立花元気市 郷店

- TEL/0898-32-2355
(JA今治立花 くみあいマーケット郷店)
- 営/9:00~20:00
- 休/無休(年始は除く)
- 住/今治市郷本町1-2-15
JA今治立花 くみあいマーケット郷店 内
- URL/なし



インフォメーション

立花元気市 鳥生店

- TEL/0898-22-9565
(JA今治立花 くみあいマーケット鳥生店)
- 営/9:00~19:30
- 休/無休(年始は除く)
- 住/今治市北鳥生町3-3-14
JA今治立花 くみあいマーケット鳥生店 内
- URL/なし



◀「鳥生れんこん」は鮮度を保つため土のついたままで並ぶ



小林 幸司さん
(JA今治立花 職員)

「立花地区は元気な人が多いところ。『鳥生れんこん』が美容と健康と長寿にいい食材だから、なんです。みなさんも『鳥生れんこん』で健康生活を実感してみてくださいね」

立花元気市 ~JA今治立花~

今治市街の古くからの農業地帯で、マーケットとのコラボで地域農産物をアピール

元

気です!

立花の人も野菜も

「立花元気市」は平成9年10月、JA今治立花管内の農業に情熱を傾ける若い青壮年部組合員の有志約20名が立ち上げました。くみあいマーケットの店頭に売り場を設けた月2回の朝市からのスタートです。生産者自らが運営する対面販売で消費者と直接交流し、地産地消を通して地域農業の活性化につなげていきたいという熱意で、朝市は続きます。

平成17年2月に、現在の形である「くみあいマーケット郷店」、「鳥生店」のインショップとなりました。販売はマーケットに任せて生産者が常駐しないで済む負担軽減と、常設営業となると収入の目的がたちやすことから、会員が増大。家族ぐるみの参加や小ロットで持ち込む元気な高齢者、特に若いお嫁さんが積極的に加わるなど、今では出荷者が172名の大所帯となっています。運営委員会では、売り上げや改善点を話し合う月1回の定例会、先進地の視察、忘年会など、和気あいあいとした活動はそのままに。郷店14坪、鳥生店10坪で年間約6、000万円を売り上げています。

消

費者と産地と

身近な距離感で

くみあいマーケットの入口一番に陣取る「立花元気市」。両店とも決して広くはありませんが、畑と売り場の距離が近いいため野菜の鮮度は際立っています。

地元産にこだわりの地域・出荷者が限定されているだけに、天候不順が続くと品揃えに大きく影響しますが、今年は秋冬野菜も順調なすべり出します。キャベツなどの葉もの野菜、大根や人参などの根菜類も多数の品揃えが見込まれます。シャキッとした歯ごたえと粘りの特産「鳥生れんこん」もこれから旬の季節です。

お客様はまず「立花元気市」へ直行してから青果コーナーへ向かう方が多く、マーケットになくはない人気商品の産直ショップとなっています。出荷者にとっては、同品目を出荷する会員同士のみならず、店内の青果コーナーの商品とも比較をされますから、名前の入った商品からは生産者の自負も感じられます。



▲「立花元気市」は緑の旗が目印



▲出荷者が直接持ち込み、整えて、行儀よく並ぶ野菜たち



出山 裕三さん
(JA今治立花 職員)

「立花元氣市に特産の里芋が並べば冬も間近。白芽、赤芽、サイズも大・小、各種取り揃えています。アツアツのおでんにホクホクの里芋はいかがですか」



▲これからが本番、冬野菜



▲みずみずしさは一目瞭然



▲果実コーナー。秋から冬にかけて柿やミカン一色となる



▲色あざやかで、長持ちのする切り花、シキビ



【広域map】



【ピンポイントmap】



▲お昼前に陳列すれば、すぐに売切れる惣菜類



▲お客様の厳しい目が「立花元氣市」を育ててくれる

品

希少な焼酎、見つけた

5年ほど前に地元の「鳥生れんこん」を広くアピールしようと鳥生れんこん焼酎「卯三郎」が完成。ネーミングの「卯三郎」は大正時代に立花地区の低湿地に適した作物としてレンコンを導入した先駆者・高山卯三郎氏への敬意を表した、思い入れたっぷりの焼酎です。原料の80%が「鳥生れんこん」、残り20%は米麹です。アルコール度数は40度、レンコン特有のほのかに甘い香りと、くせないさっぱり味が特徴です。



▲「卯三郎」は数量限定。720ml1,800円、1,800ml 3,300円

人

土づくりで、おいしいレンコン

ご主人と近隣6ヶ所約1haの田で「鳥生れんこん」を栽培している白石博子さん。アクが少なく、白くて肉質のやわらかい品種をセレクト。8月から3月は収穫と一緒に植えつけも行う忙しい作業を、農閑期にはワラを敷きこむ土づくりに余念がありません。「一度買われた方は、また買ってくれます。『おいしいよ』の一言が一番うれしいですね。」



▲レンコン田を背景に、「お嫁にきて？年。主人には「鳥生れんこん」がキズになるといけないからと、いまだに掘らせてもらえません」とニコリ



●特集「2012愛媛みかん大使を任命しました」を読んで新しい愛媛みかん大使が決まりましたね。ぜひ、全国に愛媛のみかんをPRしてください。期待しています。

(八幡浜市・平家 世利子さん)

●愛媛みかん大使には女性ばかり。なぜ男性も任命しないのでしょうか？イケメンなら主婦のハートをぐっとみかんに引き寄せるのでは？

J A全農えひめとJ Aえひめ中央とこんがらがってしまうのですが…。どう違うのか教えてください。

(伊予市・亀田 均さん)

★編集部より：「J Aえひめ中央」は、松山市や伊予市、東温市、砥部町、内子町の一部などをエリアとする総合J Aです。県内には、総合J Aが12あります。

一方、総合J Aなどが出資して、信用事業（J Aバンク）・経済事業（全農）・共済事業（J A共済）など事業別に、全国や県段階で「〇〇農業協同組合連合会」という連合会組織が作られています。

「J A全農えひめ」は、全国農業協同組合連合会愛媛県本部といい、その名の通り、J Aえひめ中央をはじめ県内・全国のJ Aが出資して作った、全国的な組織（連合会）である「J A全農」の愛媛県本部が「J A全農えひめ」です。

●直売所めぐり大好きです。「水都市武丈店」は、温泉の隣にあります。冬には温泉につかり心も体もポカポカとします。スタッフの方も愛想がよく、こじんまりとした素敵なお店です。

先日は、四国中央市の「じゃじゃうま市」に行きました。書道ガールズの案山子が出迎えてくれました。里芋「伊予美人」を買って、「芋炊き」をしました。滑らかで口当たりがよく、大変美味しかったです。これからも多方面の直売所に足を運びたいと思っています。

(西条市・日野 由紀子さん)

●「ときめき水都市武丈店」は、本当に「天然温泉武丈の湯」の隣にあります。買い物に、温泉に、ぜひ来てくださいネ。

ひめライス新米キャンペーン、POMのんでの

ぞいてキャンペーンに興味あり。いつもワクワクしながら応募しています。

(西条市・三宅 住枝さん)

●エッセー「私と農業」を読んで。小山田さんが、お寺で修行している人たちと一緒に荒地で頑張っている姿に感心させられました。自然の中で営まれる農業は、日本文化の原点であったはず。自然の中では小さく見えること…。小山田さんが自然の中で皆さんと農業を楽しんでいる様子が文章から伝わってきます。

直売所めぐりは、いつも楽しんで読んでいます。遠くに出かけることは出来なくても、本の中で旅に出た気分になります。珍しい作物等も出ているので驚いたりしています。これからも四国中を巡って欲しい。

(新居浜市・高橋 八重子さん)

●ふるさとエッセーを読んで、普段何気なくスーパーで買っている野菜やお米について考えさせられました。農家の方が汗を流して、心を込めて一生懸命作られている。いろいろな苦労をされていることを改めて感じました。

(松山市・山田 祥江さん)

●イオン従業員のミニトマト収穫を読んで。我が家もミニトマトを植えています。収穫期になるとプチプチと手でいじるといい感じでした。「じゅくしている実をヘタがとれないように収穫してください」という気遣いにびっくりしました。そういえば、バックで売られているミニトマトは全部ヘタがついていたのを思い出しました。あの小さな1個ずつにも気遣いがされているのだな…。思わず生産者に感謝の気持ちでいっぱいになりました。

我が家では、15年前から月に2回、西条まで飲み水（料理用）を汲みに行っています。美味しいのはもちろん、安心して口にすることができそうです。そんな水でできる野菜は、きつとおいしくて安心だと思います。今度、西条に行ったときには、ぜひときめき水都市に立ち寄ってみたいと思います。

(今治市・阿部 峰之さん)

今月のクイズ

愛媛県は、平成24年産で、はだか麦の収穫量が何年連続で日本一になったのでしょうか？
「〇〇年連続」

プレゼント

クイズに正解した方の中から抽選で、図書カード1,000円分を10名様にさしあげます。

応募方法

折り込みハガキにクイズの答えと本誌に対するご意見・感想などをお書き添えの上、ご郵送ください。

締切り

平成24年12月14日（当日消印有効）

発表

「あぐり」1月号で発表します。

当選者発表

9月号の答えは「54代目」でした。たくさんのお便りありがとうございました。厳正な抽選の結果、次の10の方に図書カード1,000円分をお送りします。

妻島 和美さん（四国中央市） 梶原 量之さん（大洲市）
松浦 宏美さん（宇和島市） 川内 元子さん（松山市）
石川美由紀さん（四国中央市） 田村恵美子さん（今治市）
井上 喜美さん（八幡浜市） 松本 恵子さん（松山市）
岡 葉子さん（八幡浜市） 日野由紀子さん（西条市）



編集後記

★J A全農えひめは、今年も11月3日の「みかんの日」を皮切りに4月14日まで、「オレンジロード」企画に取り組みます。

本文中でも触れていますが、注目度は年々高まっており、量販店等でもオレンジデー企画の取り組みも増えてきていますが、全国的な知名度はまだまだ。「継続は力なり」ということで、愛媛のかんきつ＝オレンジデーを定着させたいものです。

(正直)

NOW NOW

COOKING

今月の素材

サツマイモ



見直したい、ヘルシーフードNo.1

ダントツの食物繊維！ビタミンCはミカン並み

▶(左) サツマイモの炒め物、(中) 蒸しパン、(右) 芋ようかん



指導／学校法人愛媛学園（愛媛調理製菓専門学校）大西 望先生

サツマイモの炒め物

〈材料・4人分〉	※1人あたり約143kcal
サツマイモ	250 g
豚薄切り肉	100 g
塩	適量
コショウ	適量
油	適量
① 醤油	大さじ1・1/2
② 砂糖	小さじ2
③ だしの素	小さじ1/2
④ 片栗粉	小さじ1
⑤ 水	大さじ2

〈作り方〉

- ① サツマイモは乱切りにし、水にさらした後、耐熱皿に並べてレンジで加熱（500wで約3分）。
- ② 豚肉は3cm幅に切り、塩・コショウをふる。
- ③ 油をひいたフライパンで②を炒め、①を加える。
- ④ ③に④の合わせ調味料を加えて、からめる。

蒸しパン

〈材料・4人分〉	※1人あたり約157kcal
サツマイモ	中サイズ1本
小麦粉	150 g
① ベーキングパウダー	小さじ1
牛乳	100cc
砂糖	30 g

〈作り方〉

- ① サツマイモは皮を洗い、1cm角に切る。
- ② ①の蒸しパンの材料を混ぜ合わせ、型に入れて①をのせる。
- ③ 蒸気のがる蒸し器で15分ほど蒸す。

※ 砂糖は黒砂糖などでも可。

芋ようかん

〈材料・4人分〉	※1人あたり約120kcal
サツマイモ	200 g
粉寒天	2 g
牛乳	150cc
砂糖	30 g

〈作り方〉

- ① サツマイモは皮をむいて一口大に切り、水から茹で、やわらかくなれば水気をきり、裏ごしをする。
- ② 鍋に粉寒天と牛乳を入れて火にかけ、砂糖を加えて少し煮詰める。
- ③ ②に①を加えて混ぜ、火からおろし、型に流して冷蔵庫で固める。

のんで！のぞいて！
旬のみかんを搾ったジュースプレゼント！

応募期間

2012

12月31日 月 まで



【対象商品】
・ポンジュース 1L ペットボトル
・ポンジュース 500ml ペットボトル



※キャンペーン商品は9月初旬頃より販売予定です

当たりが出たら

5,000名様に当たる!!

POM 愛媛みかん 旬ストレート100
(1Lペットボトル/6本入)



キャンペーン情報はここから

えひめ飲料 ホームページ

<http://www.ehime-inryo.co.jp>



株式会社 えひめ飲料

〒791-8603 松山市安城寺町478番地

TEL:089-923-1527 FAX:089-924-0304



きれいな肌は、
きれいな服より
恋を实らせると思う。

ビタミンCでお肌に栄養!



愛を伝えるものって
バラの花以外にない
と思ってました。

オレンジも"愛のシンボル"



デートとか旅行とか
大切な日にかぎって
風邪はやってくる。

β-カロテンで免疫力UP!



温泉にマッサージ。
行きたい場所が
ぜんぶ癒し系。

ビタミンB群で疲労防止

カラダに「愛」を。
ココロに「愛」を。

愛媛のみかん

愛のオレンジロード オレンジは"愛のシンボル"。「オレンジデー」までの記念日に贈り合って、大切な人との絆を深めませんか。

♡ みかんの日 11/3 12/3 恋するシーズンの到来 〈旬の柑橘〉温州みかん、紅まどなど、POM 愛媛みかん缶ストレート100 ♡ バレンタインデー 2/14 愛を届けよう 〈旬の柑橘〉伊予柑、ポンカン、はるみ、甘平	♡ いい予感 1/14 恋愛成就のいいきざし 〈旬の柑橘〉伊予柑、ポンカン ♡ ホワイトデー 3/14 愛に応えよう 〈旬の柑橘〉デコポン、せとか
♡ オレンジデー 4/14 愛を深めよう 〈旬の柑橘〉清見タンゴール、カラマンダリン	

4.14 Orange day
ふたりでおこなう。

詳しい内容はホームページをチェック!
愛のオレンジロード [検索](#)

JA全農えひめ